

若松台小学校の学校適正規模・適正配置に係る地元説明会 議事要旨

- 1 日 時 令和7年4月19日(土) 午前10時～午前11時30分
- 2 場 所 若松台小学校 体育館
- 3 出席者 48名



4 教育委員会挨拶（企画課長）

本日はお忙しい中、地元の皆様にお集まりいただき感謝申し上げます。また説明会の開催にあたり地元各代表の皆様にご多大なるご協力をいただいたことに深く感謝申し上げます。

若松地区町内自治会連絡協議会会長、若松中学校区青少年育成委員会会長、青少年育成委員会顧問をはじめ、若松中学校区の各自治会会長の皆様、各幼稚園、保育園園長の皆様、若松中学校区小中学校4校のPTA・保護者代表の皆様および学校評議員の皆様にご心より御礼を申し上げます。

全国的な少子化が進む中、千葉市においても、多くの学校で小規模校化が進んでいる。また、子どもの学びのスタイルが近年大きく変化し、学習指導要領では「主体的・対話的で深い学びの推進」が示された。適切な学校運営は適正な学校規模で行われることが望ましいが、現状では様々な課題が顕在化している。

そのため、本市では平成16年度から学校規模の適正化、適正配置に取り組み、平成30年に「第3次千葉市学校適正規模・適正配置実施方針」を策定した。これに基づき昨年4月、若松台小学校での保護者説明会を行うとともに保護者の皆様との意見交換を続けており、それをうけて本日の地元説明会の開催に至ったという経緯がある。

これまで本市では、学校規模の適正化において、保護者の皆様や地元の皆様との対話・議論を重ね、子ども達のよりよい教育環境と教育の質を充実させることを目的に、学校適正配置を進めてきた。

詳細については、このあと担当より説明するが、今後も皆様のご意見を丁寧にお聞きしながら進めてまいりたい。

5 教育委員会企画課職員の紹介

6 説明（教育委員会）

- (1) 第3次千葉市学校適正規模・適正配置実地方針について
- (2) 若松台小学校の児童数等の状況について
- (3) 若松台小学校に係る学校適正規模・適正配置の取組みについて
- (4) 今後の取組み予定について

事務局から資料に基づき、上記について説明

7 質疑応答

質問1：通学距離の基準について、小学生は4km以内とのことだが、現在の気候でこの距離は適切なものか。

企画課：通学距離の基準は国の指針に沿ったものである。これは北海道から沖縄まで全国共通の基準であることから、例えば、夏の時期に小学1年生が暑さの中歩くということについてのご心配の声などもいただいております、そういった声を踏まえて、千葉市において適切かどうかを検討していく必要があると認識している。

意見1：統合となった場合には若松小との統合が現実的とは考えているが、交通量が多い御成街道等もあるため、保護者としては心配である。一方で、就労しているため送迎も困難である。通学路のラインを引くなどの対応だけでは通用しない部分もあるのではないかと。そういった情報が少ない中で、今自分の中で意見を決めろというのは困難であると感じている。もう少しアンケート結果等でこういった意見もあったなどの情報を提供してもらいたい。

企画課：資料に記載されているアンケートは昨年度若松台小の全保護者に配付してご協力いただいたものである。アンケート結果は保護者会にて配付しているが、新1年生の保護者にはまだ情報が届けられていないため、改めて情報が届けられるように検討していきたい。本日配付した資料には、過去に実施したアンケートで保護者の方々から多く出た質問と回答を掲載しているため、まずはこの資料を後ほどゆっくりとご覧いただきたい。追加の質問等がある場合には、資料裏面の企画課の連絡先にご連絡いただきたい。

質問2：仮に統合となった場合、若松小に通うことになると思うのだが、現在の気候等を考えると、徒歩で2、3kmという距離の通学はなかなか困難であると感じている。自転車通学やスクールバスといった通学に関する対策は検討されているのか。

企画課：現在、千葉市において、小学生や中学生の登校を支援する制度や自転車通学に関する規定はない。特別な調査を行っているわけではないが、一部の学校において特別の事情がある場合には、学校側と相談し、地域の実情や安全面等を踏まえたうえで自転車やバスの使用を認めるといったケースもある。

質問3：千葉市と四街道市の境にある地区であるため、四街道市在住であっても若松台小のほうが近い距離に居住している児童もいるかと思うが、そういった児童が希望した場合には若松台小に通学することは可能なのか。

企画課：四街道市との協定で定められた特定の地域に居住する児童については、学区外であっても若松台小に通うことは可能である。実際、四街道市の児童で若松台小に通っている児童はいるが、その数も減少傾向にある。

質問4：四街道市の児童が若松台小への通学を希望したときには、こういった問題があるのか。四街道市民で、千葉市との境にあるめいわや小名木地区でない方も希望さえすれば若松台小に通えるのか。

企画課：地域ごとに四街道市と千葉市で協議して決めている。例えば、めいわ5丁目以外に居住している四街道市民が若松台小への通学を希望しても認められないことになっている。

意見2：市内の学区外通学であれば選択できるのに、市が変わってしまうと制限がかかる。そのあたりを連携できるよう、検討したほうが良いと思う。時代の変化に合わせて、行政の区

割りなど考えずにより効率的な方法を考えていただきたい。

企画課：四街道市との連携について、若松台小の保護者からもそういったご意見は頂いており、我々も四街道市と情報共有をおこなっている。本日の説明会の開催や、こういったご意見が出るであろうという見通しについても情報を共有している。

質問5：千城台地区、高洲地区において最近統合した学校があると思うが、実際どのくらいの年数を協議に要しているものなのか。ほかの地区を参考に教えてほしい。転校せずに新しい環境を手に入れる、様々な人と知り合える、というポジティブな面もあれば、母校がなくなるといったマイナス面もあると感じているため。

企画課：近年の取組みについてお伝えする。地元代表協議会の開催期間については以下の通り。
大宮地区地元代表協議会・・・協議に要した期間は約6か月
花見川地区地元代表協議会・・・協議に要した期間は約4か月
千城台地区地元代表協議会・・・協議に要した期間は約9年間
地域の実情によって協議に要する時間は様々である。

質問6：学校は街のシンボルだと思う。実際、最近越してきた方も不動産屋に「学校が近くにある」ということでお勧めされたのでは。学校がなくなると、街は魅力がなくなって、人が住まなくなってしまうのではないか。そういった見地からも学校計画は検討されているのか。将来住み続けた時に「この街がどうなっていくのか」というところを所管の部署と連携しているのか。

企画課：教育委員会としては、子どもの教育的視点を第一に考えていく。魅力ある地域づくり、地域の活性化の視点については、所管している課と情報共有していく。若松台小の児童数の推移については、昭和54年に若松小より分離独立し、急激に児童数が増加した後、減少に転じている。以降、現在に至るまでなだらかな減少傾向であり、住基情報をもとにした今後の児童数推計結果も減少傾向である。また、児童数推計については、開発状況を加味して算出している。現状としては大きな開発が行われるという情報をつかんでいない。「地域のシンボルとしての学校」という意見は他地区においてもある。一方で、「人数が少ない学校に行かなくてはいけないのか」という意見もある。適切な規模の学校に通えるという点も地域の魅力に資するのではないかと教育委員会としては考えている。

意見3：事情により急遽、若松台小学校区に引っ越してきたが、その後周辺で賃貸物件を探した。しかし同じ学校区内に適切な物件がなく、隣接する四街道市には空いている物件があったため、学事課に「四街道市からの通学となるが、引き続き若松台小に通えないか」という旨の相談をしたところ、「市が異なるため、学区外通学を認めることは難しい」という回答をされた。また、自分が学生時代の話になるが、四街道市の友人は若松台小に通学していたが、中学生になった際にその友人は徒歩5分の場所にある四街道中に通う一方で、自分自身は徒歩40分かかる若松中にしか行けなかった。その際、「友人は千葉市の学校を選択できるのに、自分は四街道市の学校には行けない」ということに当事者として不公平を感じた。市区町村の対応となるため、難しいことも多いかとは思いますが、これから日本全国で少子化が進んでいくと同じような問題が出てくる。この対応として、千葉市と四街道市

の連携を柔軟にして、たとえ市が異なっている場合でも希望者は学校を選択できるようにしてもらいたい。

企画課：四街道市にはこの説明会も含めて情報共有を行っているところである。四街道市の学校に受け入れられる余裕があるのか、四街道市の考え方もあるため、千葉市が決定できる部分ではないものの、こういったご意見があることを真摯に受け止めて、千葉市としてはこれまでどおり受け入れる準備をしつつ、四街道市との連携に関しても話し合いを通して検討していきたい。

意見4：若松台3丁目は600世帯くらいあるが、ほとんどが高齢化している。若い人が移り住んできて良かったなと感じていたが、小学校が若松小に移ると、魅力がなくなってこれから若い人が来なくなってしまうのではないかという心配がある。

「子どものため」と言いながら、まとめたいのは市なのだと感じる。教員の経費の関係や小さいところは大きいところに移すべきだという大人の考えだとどうしても思ってしまう、違和感を覚えた。やはり子どもたちが主体なのであれば、子どもたち自身の意見を聞いてもらいたい。

企画課：子ども達の声を聴くという意見をいただくこともあるが、子どもの学びの場をどうするかは我々大人が責任をもって話し合いをして示すべきであり、子どもたちに責任を負わせるべきではないと考えている。

意見5：アンケートについても、意図はないと思うが、児童が100名いる中で20名の保護者の意見というのはいかがなものか。100名全員のアンケートをとってまとめていただければと思う。

企画課：我々も多くの回答が得られれば良かったとは感じてはいるが、アンケートという任意の性質上、全世帯の方に伝えたものの、回答数が伸びなかったという点をご容赦いただきたい。なお、このアンケート結果でもって何かが決定されるものではない。参考として捉えている。

質問7：若松台小が自分たちの避難所になっている。貯水槽や水があるという案内をうけていたのだが、この場所がなくなるとどうなるのかも合わせて教えてほしい。「実際に災害が起きた際に水道が使えない」といった事態になるのではないか。

企画課：学校は子ども達だけでなく、地域においても重要な役割を担っていることは重々承知している。仮に取組みが進んで、学校として使用しなくなった場合、跡施設はどうするのか、避難所の機能はどうするのかといった問題は地域の方と行政で共有しながら検討していくことになる。避難所を所管している部署に確認したところ、若松台小の周辺の地区において仮に統合後の学校がどこになったとしても、直下型の地震が起きた場合、想定避難者数分の収容人数の確保はできているという回答は得られている。また、跡施設として利用が可能な限り、継続していく予定とのことである。

質問8：学校区の地図を見たところ、若松台小の学校区が非常に狭いと感じた。例えば現在若松小の学校区となっている北西のエリア（下志津駐屯地付近）や御成街道から北側を若松台小

学校区とすれば、児童数が増え、若松台小は存続できるのではないか。

企画課：学区の変更に関しては、我々も検討しており、保護者からも同様のご意見をいただいた。北西のエリアに関してはある程度の人数が居住しているものの、この地域は学区外承認により都賀の台小に通学している方が多く、学校区を変更したとしても、大幅な改善にはならない。また、若松小に通学する児童のボリュームゾーンは御成街道より南側にあり、北側に関しては、そもそも居住している方が少ない。この地域を若松台小学校区に組み込むシミュレーションを行ったものの、やはり大幅な改善は見込めなかった。何よりも、若松台小を残すために、「現在若松小に通っている児童に今よりも遠い学校に転校してくれ。」とお願いしても理解を得ることは難しい。これから入学する児童の学校区を変更するにしても大幅な改善は見込めないと考えている。

質問9：(上記)シミュレーションは四街道市めいわ1丁目、2丁目の児童も盛り込んでいるのか。めいわ地区は若松台小から近く、それなりの住宅地があり、この希望者を受け入れれば児童が増えると思う。そのシミュレーションも行ってもらえるか。

企画課：めいわ地区については盛り込んでいない。四街道市児童のうち、学区変更となるのは希望者のみである。シミュレーションは千葉市の児童のみで算出した推計であるため、四街道市の児童については盛り込んでいない。シミュレーションについては、四街道市からの情報提供も必要となってくるため、可能かどうかも含めて検討していきたい。

質問10：仮に学校が廃校・統合になった場合、体育館やグラウンドの使用は継続できるのか。

企画課：学校跡地利用については、校庭がスポーツ広場として利用され、体育館やグラウンドが残る例もあれば、売却し住宅等の開発が行われる例もある。仮に学校が無くなった場合、過去の事例だと、千葉市の保有地であれば、どう活用していくのかは所管である資産経営課が中心となって検討することになる。そういった中で避難所の機能や、今現状で利用されている方々の声を聴きながら決定していくことになる。

質問11：資料や説明会では「方針は決まっていない」とはいうものの、廃校についてすでに決定しているので、何をいってもダメなんだろうなと感じている。確かに小規模校となることによるメリットやデメリットはあるかと思うし、十分に理解しているが、そういうことも踏まえて我々としては、やはり学校は残しておきたい。その一方で教育委員会としては「廃校」という結論ありきで進んでいるという気がしている。そのあたりの意見を聞きたい。

また、廃校の判断にあたり、実際の住民の声が入っていないうえ、この地域が今後どうなっていくのかという観点の記載がない。地域の住民の声を無視して学校をなくしてしまったら、若い世代が余計入ってこなくなってしまう。若松小が現在500名程度の児童がいるとのことだが、これに関しても今後同じような状況になってしまい、いつかは限界集落のようになってしまうのではないか。こういう意見があることを伝えなかった。

企画課：今回の説明会の目的は、地域の皆様の純粋なご意見を真摯に受け止めるというものであるため、こういったご意見はありがたく受け止めて検討したいと考えている。資料の中でご不満な点があったのは申し訳なかった。ただ、現状の取組みをお話しする目的でこの説明

会を開いたため、このような資料となっている。現状、保護者の方々の意見も決まっていない。学校規模の適正化を進めたいという思いで説明会を開いたというのはもちろんだが、これまでの地域でも、地元代表協議会を開いた後に私たちの適正配置案が採用されなかったということもあるので、こちらで決まった結論でお話ししているというお考えは誤解であり、そこは理解していただきたい。

意見6：若松台小の学区内に居住している児童の中で、すでに若松小に通っている児童がいるようだ。そういった意味ではすでに流出が始まっていると感じている。それで人数が減っていることもあるのかなと思う。その理由としては少人数の学校であるため、今後学校がなくなってしまうのではという懸念からなのだろう。自分は心理カウンセラーをしているため、子どもや保護者の話を聞くことが多い。いわゆるグレーゾーンの子などは、大人数のクラスは苦手だけど、小さいクラスであれば自分を出せるかもしれないという話はたくさん聞くし、そういったお子さんが増えているのは間違いない。それはおそらく千葉市だけでなく、四街道市の子も同様。そういうことを考えると、少人数だと逃げ場がないという保護者の心配を理由として若松台小から若松小に流出していく子もいる一方で、若松小や近隣の四街道市の小学校の中で少人数校であれば自分を発揮できるという子ども達に向けて、若松台小が少人数であることを強みにしていけないのか。また、以前はたくさんのお子さんがいたことから施設が充実している。耐震工事も終えているため、今後はフリースクールにするなど、将来的に「若松台小」という形ではなくなってしまうかもしれないが、地域の活性化とかを考えるとこの学校自体に子どもを残すという点においてはまだ検討の余地があるのかなと思うので、ぜひ子ども達が共有できる場としてこの学校の活用方法を検討してほしい。

企画課：小規模校の方が学べる、学びやすいという子どもがいるということに関しては重々承知しており、そういった多様な学びの場の必要性は認識している。それをどこに設置するのか、エリアをどうするのかといった問題はあるが、千葉市としては「誰一人取り残さない教育」のもと教育長以下取組みを進めているので、そういった様々な意見も踏まえながら子ども達の学びの場所を提供していきたいと考えている。

企画課：様々なご意見を頂戴した。本日の様々なご意見を踏まえて今後、協議を進めていきたい。

8 連絡事項等

(担当)

今後は本日の地元説明会で頂戴したご意見・ご質問を踏まえ、6月に実施予定のPTA本部の決議をうけて、学校適正配置案の作成や地元代表協議会設置・開催に向けた準備をおこなうことになる。今後も、ご所属の団体等を通じて、または直接教育委員会企画課にご意見を頂きたい。

地元の皆様との対話の継続を心がけ、若松中学校区の子どものことを中心に据えた意見交換を図っていきたい。ご不明点等があれば、教育委員会企画課まで問合せ願いたい。